



平成 21 年 11 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント
代表者名 代表執行役社長 徳田 一
(J A S D A Q ・ コード 6425)
問合せ先 財務経理部長 桐生 慶久
電話 03-5530-3055 (代表)

業績予想の修正及び特別利益の発生に関するお知らせ

平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成21年6月2日付「平成21年3月期決算短信」及び平成21年8月7日付「アルゼマーケティングジャパン株式会社との合併に伴う特別損失の発生及び個別業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表しておりますが、これを下記のとおり修正するとともに、平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の特別利益発生についてお知らせいたします。

1. 平成 22 年 3 月 期 連結業績予想の修正

(1) 第 2 四半期累計期間 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想 (A)	22,000	2,000	2,000	1,500	18.76
今回修正 (B)	20,220	3,443	1,411	787	9.85
増減額 (B-A)	△1,780	1,443	△589	△713	-
増 減 率	△8.0%	72.1%	△29.4%	△47.5%	-

(ご参考)前期実績

(平成 20 年 4 月～9 月) (C)	10,593	△7,242	△553	△1,294	△16.19
増減額 (B-C)	9,627	10,685	1,964	2,081	-
増 減 率	90.9%	-	-	-	-

(2) 修正理由

「緑ドン」「銀河英雄伝説」を中心とした利益率の高いパチスロ機の販売が好調に推移し、売上高全体に占める割合が期初の予想よりも高くなった事より、表記のとおり、売上高及び営業利益を修正いたします。売上高については、ほぼ想定通りであった一方で、営業利益についてはプラス 72.1%と大幅に上方修正しております。

平成 21 年 5 月に販売を開始した「緑ドン」、「銀河英雄伝説」をはじめとする人気機種の開発に成功し、順調に売上台数を伸ばしております。「緑ドン」は、40 千台を超える販売実績をあげ 4～9 月期で非常に高い評価を頂く結果となりました。加えて、9 月末に発売した「銀河英雄伝説」も、9 月の決

算間近の短期間発売ではありましたが、5千台に達する売上を記録し、10月に入ってから同商品の販売は継続しております。このように当社はパチスロ5号機の中で、安定した機種を次々と市場投入しており、パチスロ事業を中心とする当社グループの国内事業は大きな改善を見せております。前期の赤字体質から完全に脱却し、パチスロの人気機種の開発メーカーとして市場での確固たる評価につなげることが出来ました。また、11月3日に販売納入を開始した「青ドン」も現時点で好調な受注を受けております。これらの結果、売上高は20,220百万円（前年同期比、90.9%増）、営業利益は3,443百万円（前年同期△7,242百万円の営業損失）となりました。

また、経常利益及び当期利益につきましては当社グループの持分法適用関連会社であるウィン・リゾート社の今期1-6月の中間期では、昨年12月末にオープンしたアンコール・アット・ウィン・ラスベガスの開業コストが影響し若干の損失を計上、この当社グループ持分（19.9%）相当額に、ウィン・リゾート社が過去に自社株を取得したことにより発生したのれん相当額の償却額（当第2四半期連結累計期間、約17億円）など必要な調整を加えた持分法投資損益が結果として想定を下回った為、表記の通り修正いたします。

(3) 通期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想（A）	58,000	12,000	12,000	7,000	87.57
今回修正（B）	58,000	12,000	12,000	20,000	250.20
増減額（B-A）	0	0	0	13,000	-
増減率	0.0%	0.0%	0.0%	185.7%	-

（ご参考）前期実績

（平成21年3月期） （C）	19,993	△11,605	△13,224	△14,808	△185.26
増減額（B-C）	38,007	23,605	25,224	34,808	-
増減率	190.1%	-	-	-	-

(4) 修正理由

通期につきましては、11月3日に導入を開始した『青ドン～花火の極』が、パチスロ市場で評価を得た実績があるキャラクターの『ドンちゃん』を擁し、4号機時代の有名機として一世を風靡した『ハナビ』の流れをくむ機械となっています。当社独自のリール制御、そして業界初の光ファイバーを使用することにより、業界初の技術力でハーネスを排除しました。遊技性においてもリールでの完成度とともに映像表現力は、新時代を感じさせるマシンとして当社の自信作であります。また、市場での反響も大きく、既に40,000台を超える受注が確定され、好調に推移しております。また、第2四半期末に発売した「銀河英雄伝説」も引続き好調です。またこれら以外にも今後発売予定のパチスロ機3機種の売上の伸びも期待できるため、通期の連結売上高および営業利益につきましては、期初計画通りとしております。

通期の経常利益につきましても、当社グループの持分法適用関連会社であるウィン・リゾート社の業績が着実に回復しており、第1四半期（1月～3月期）の約33,814千米ドルの純損失から第2四半期（4月～6月期）では約25,479千米ドルの純利益を計上し、更に、マカオでの市場回復により第3四半期では純利益を約34,210千米ドル計上しており、持分法損益が改善する見込みの為、期初計画通

りとしております。

なお、ウィン・リゾート社の子会社である ウィン・マカオ社が平成 21 年 10 月 9 日に香港証券取引所に上場、公募増資を行いました。ウィン・マカオ社の公募増資への投資家の関心は非常に高く、公募価格は募集仮条件の上限である 10.08 香港ドルとなり、資金調達は 1,500 億円に達し、成功裏に終了いたしました。この公募増資に伴い、当社連結では、当社グループのウィン・リゾート社に対する持分（19.9%、筆頭株主）相当の特別利益が発生する見込みです。特別利益の額の一部は配当予定を現状見込んでおります。当期純利益予想額を 20,000 百万円に上方修正いたします。

なお、ウィン・マカオ社の公募増資が高く評価されたこと、また主にマカオ市場での業績回復傾向が顕著であることなどから、ウィン・リゾート社の株価は平成 21 年 7 月の約 30 米ドルから大きく上昇しております。米国時間 11 月 10 日の終値は 64.09 米ドルとなっており、時価総額の当社グループ持分（筆頭株主として 19.9%を保有）相当額は約 1,400 億円となっております。

2. 平成 22 年 3 月期 個別業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期累計期間（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想（A）	18,500	2,500	2,500	△2,000	△25.02
今回修正（B）	13,908	2,064	2,191	△2,186	△27.35
増減額（B－A）	△4,592	△436	△309	△186	-
増減率	△24.8%	△17.4%	△12.4%	-	-
（ご参考）前期第 2 四半期実績 （平成 21 年 3 月期第 2 四半期）	5,052	△4,200	△2,432	△2,892	△36.18

(2) 修正理由

当社は平成 21 年 6 月 1 日にアルゼマーケティングジャパン株式会社を吸収合併しましたが、期初予想と比べ、連結ベースでの合併前のアルゼマーケティングジャパン株式会社の売上高の比率が高く、個別での売上が当初計画を下回ったため、個別の売上高を表記の通り修正しました。これに伴い、営業利益、経常利益、当期純利益も影響を受けました。

なお、通期個別業績予想については 1、（4）で説明いたしましたとおり、売上高、営業利益、経常利益ともに、当初予想に沿って推移する予定であり、また、当期純利益につきましては、特別利益が個別業績に関係しない事より、修正はございません。

3. 特別利益の発生見込

ウィン・リゾート社の子会社である ウィン・マカオ社が平成 21 年 10 月 9 日に香港証券取引所に上場、公募増資を行いました。ウィン・マカオ社の公募増資への投資家の関心は非常に高く、公募価格は募集仮条件の上限である 10.08 香港ドルとなり、資金調達は 1,500 億円に達し、成功裏に終了いたしました。この公募増資に伴い、当社グループのウィン・リゾート社に対する持分（19.9%、筆頭株主）相当の特別利益が発生する見込みです。特別利益の金額は現状 130 億円と見込んでいます。

以上